



御所見通信

2018年6月29日

7月号

藤沢市立御所見小学校

校長 三橋 雅幸

高学年の自覚

先日、午後出張のため、用田バス停から長後駅西口行きのバスに乗りました。子どもたちの下校よりも1本早いバスに乗るつもりだったのですが、バスが遅れていて、下校と重なりました。その日はあいにく、全学年午前授業の日。

御所見市民センター前から子どもたちが大勢乗ってきて、車内はランドセルをしょった小学生でいっぱいとなりました。バスの遅れがひどくなり一般の方々には申し訳ないと思いながら見守っていました。

乗車で手間取っている子がいると、「もっと奥に詰めて。」と高学年の子どもたちの声が聞こえてきました。すし詰めで、バスは発車しました。途中、停車ボタンを押してしまったり、話し声が大きくなってしまったりすると、すかさず高学年の子どもたちから「押してはだめだよ。」「静かにして。」と注意の声がかかりました。一般の乗客もたくさんいたので、車内でのマナーはとても気になっていました。しかし、私が注意する前に、子どもたちから声が出ていました。

バスは宮の腰、葛原、東山田と進み、子どもたちは降りていきました。降りるときも「ゆっくりでいいよ。」と1年生に声をかける姿が印象に残りました。バスを降りたあとも、登校時と同じように列を作って、帰っていきました。

本校は、市内で数少ないバス通学が認められている小学校です。しかし、なかなか子どもたちの登下校時に一緒にバスに乗る機会はありません。今回は、いい光景を見ることができ、その日は1日嬉しかったです。

今の6年生も、きっと1・2年生の頃は、上級生に注意をされて、バス乗車のマナーを覚えていったことでしょう。徒歩通学の子どもたちも、登校班で学んだことがたくさんあると思います。高学年の子どもたちが手本を示し、低学年の子どもたちがそれを見て育ち、継承していく。高学年の子どもたちも、見られている自分を意識して成長していく。その積み重ねが御所見小学校の子どもたちの現在の姿をつくっているのです。

本校の伝統の一つとなっている鼓笛は、運動会に向けて6年生が毎日、20分休み・昼休みにドリル演奏の練習をしています。進んで練習をする姿は、御所見小学校6年生としての自覚なのだと思います。



鼓笛ドリルの練習をする6年生